

会 議 録

会議の名称	第2回小金井市平和施策検討委員会
事務局	企画財政部広報秘書課
開催日時	平成26年5月19日午後3時00分から午後4時40分まで
開催場所	小金井市役所前原暫定庁舎1階第2会議室
出席者	委員：根岸座長、林副座長、鴨下委員、永井委員 事務局：天野広報秘書課長、吉田広聴係長
傍聴の可否	可
傍聴者数	2人
傍聴不可等の理由等	
会議次第	<p>1 資料説明</p> <p>(1) 第1回議事録の確認について</p> <p>(2) 配布資料について</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 意見交換</p> <p>(2) 小金井平和の日について</p>
発言内容・ 発言者名 (主な発言 要旨等)	<p>発言内容</p> <p>別紙のとおり</p>
提出資料	<p>1 第1回小金井市平和施策検討委員会議事録</p> <p>2 皆木繁宏日記(抜粋) ※回収資料</p> <p>3 東京空襲日誌</p> <p>4 小金井町戦争犠牲者慰霊碑建設の経過について</p> <p>5 各自治体の「平和の日」制定条例等</p> <p>6 「失われた季節」富永次郎著(抜粋)</p> <p>7 永井委員の意見・提案シート</p> <p>8 永井委員が朝日新聞に投稿した記事の冊子</p> <p>9 林委員の意見</p>

【根岸座長】 それではお集まりいただきましてありがとうございます。第2回小金井市平和施策検討委員会を開催いたします。

まず、資料がたくさんございますけれども、一番上に、第1回小金井市平和施策検討委員会の会議録が乗っております。今ここで見ていただくと時間がかかりますので、この議事録を一度後で見ていただきまして、もし発言のご趣旨に違いがあったり、あるいは発言は、どうしても口語体とか話し言葉ですと文章が冗長になったりして、意図がとりにくいこともあったりするかと思っておりますので、そういうところで、こう訂正したほうがご自分の意図が明確になるというところがありましたならば、そのときの発言の趣旨を変えないような程度でご訂正いただいて、事務局のほうで集約していただければよろしいですね。

【吉田広聴係長】 はい。

【林副座長】 議事録については、関係者の署名は要らないんですか。

【吉田広聴係長】 特段署名をいただくというところまではちょっとやっていなかったんですけども、もし署名がどうしてもよろしければ、これでよろしいということ。

【林副座長】 いや、そちらがよろしければ構いませんけれども、議事録の公正性を第三者に。

【吉田広聴係長】 そうでございますね。公表することがございますので、最終的に署名をいただくということ。

【林副座長】 事務局内で。

【根岸座長】 そうですね。ありがとうございます。

それでは次に、配付資料が大分多くございますので、配付資料につきまして、事務局のほうから説明をまずいただければと思います。

【吉田広聴係長】 広聴係長の吉田でございます。配付させていただきました資料の確認をさせていただきます。先ほどもありましたが、まず、一番最初が本日の式次第となっております。1枚でございます。それから冊子で、第1回小金井市平和施策検討委員会議事録。

それから、第2回平和施策検討委員会資料ということで、こうなっております。こちらが1枚でございます。その中の資料として、ここからまたページ番号を付らせていただいております。1ページ目からが「皆木繁宏日記」。それから、続きまして10ページ、11ページということで1枚で「東京空襲日誌」。それから12ページから18ページまで、こちらが「小金井町戦争犠牲者慰霊碑建設について」の資料となります。次に19ページから27ページまで、こちらが各自治体の「平和の日」制定条例等となっております。次に、28ページ、29ページで『失われた季節』富永次郎著（抜粋）となります。次、30ページ、意見・提案シートでございます。最後に31、32ページ、1枚で「防空壕の命の恩人」であります。

資料につきましては以上でございます。何か不備、不足等あればおっしゃっていただければと思います。

【根岸座長】 よろしいでしょうか。

【林副座長】 資料は今日やっとなら合ったという感じですか。

【吉田広聴係長】 そうでございますね。ちょっとぎりぎりになってしまったというような。

【林副座長】 この中でいただけるものがあつたらいただいております。

【吉田広聴係長】 そうでございますね。

【林副座長】 ここで改めて見るというわけにいかないでしょうしね。もし、この次からそういうことが可能であれば配慮してください。

【吉田広聴係長】 はい。

【林副座長】 いろいろ大変だとは思いますが。

【根岸座長】 それでは、一度資料を確認しながら見ていこうかと思えます。まず第2回平和施策検討委員会資料としまして、番号のないのがございますけれども、そこに1とありまして、昭和19年11月24日、空襲被害、「皆木繁宏日記」と出ておりますけれども、その次に1から9まで皆木繁宏先生の日記が載っております。

1に「昭和十七年、十八年、十九年」とありまして、昭和19年ぐらいから「警戒警報午後四時解除となる」と1にありますけれども、特に2の2段目の「十一月二十四日（金曜）」というところがございますが、そこに「千駄ヶ谷の駅に上るや否や警戒警報となる」云々とありまして、半分より下の後ろぐらいから、「三時解除となりてかへれば、緑地を中心として十三発の焼夷弾投下し、浴恩館を僅かに三百米離れ居る斗り。危険此上なし。教学錬成所は相当の被害あり。爆弾の威力、亦恐る可し。人員被害なきは不幸中の幸なり」として、備考に「桜町に敵弾投下。第四部にも二弾、焼夷弾あり」と。

後で教えていただければと思えますけれども、ここが小金井に爆弾が落ちたという、皆木先生の日記の部分であろうかと思えます。

ただ、ほかに資料の10、11と、これは東京都でつくった東京大空襲の記録ですね。

【吉田広聴係長】 さようでございます。

【根岸座長】 ここで昭和19年11月24日のところですけども、「江戸川区、荏原区、品川区、杉並区、北多摩郡武蔵野町・保谷町・小金井町・東久留米村、東京港」と書いてありまして、武蔵野は出ているんですが、小金井ということは書いてありませんが、小金井で落ちたというのが日記で確認できる。

それから、あと小金井が出てくるのが、20年の4月でしたっけ。

【林副座長】 20年の1月27日。

【根岸座長】 1月27日に「北多摩郡小金井町」。それからあとは20年の……。ここだけでしたっけ。もう一カ所あつたと思ったんですが。

【林副座長】 国分寺や何かは出ていますね。

【根岸座長】 はい。7月にありましたか。4カ所、見たとき見つけていたと思ったんですが。隣の武蔵野、三鷹、あるいは国分寺あたりはよく出てくるんですが。あとずっと見て。

【林副座長】 この19年11月24日のところ、先ほどお読みしたところですね。

【根岸座長】 そうですね。11月24日。あっ、小金井町ですね。失礼しました。

そして小金井が出てきますのは、この東京都でつくった空襲の記録ですと、11月24日と20年1月27日、2回だけになっております。ただ周りを見ますと、武蔵野ですとか、国分寺ですとか、あと三鷹というところは。

【林副座長】 田無、保谷。

【根岸座長】 はい。そうですね。田無、保谷などは大分出てきます。

【鴨下委員】 11月24日は皆木先生の日記と同じですが、小金井もやられたわけです。

【根岸座長】 はい。

【鴨下委員】 他にくらべて案外平穏だったんですね。平穏というとな変な言葉ですけど。

【根岸座長】 皆木先生の日記を見ていきますと、大分空襲に対処して心配されている様

子はわかるんですけども、直接被害を受けたというような記事は、たしか11月24日の部分だけだったと思います。

【永井委員】 そのほかに小金井公園に落ちていますからね。

【根岸座長】 あっ、そうですか。

【永井委員】 この11月24日でしたか、ここですね、「保谷町・小金井町」と書いてありますけれども、そのとき……。

【根岸座長】 11月24日の分は、ここに「浴恩館の近くに落ちた」と書いてあります。

【永井委員】 そうですね。それで陣屋橋ってご存じですよ。

【根岸座長】 はい。

【永井委員】 小金井公園の入り口のそばにある。そこから80メートルぐらいでしょうか、西に行ったところの玉川上水と土手にかけて落ちたんです。そして大きな穴があきましたので、川がこういうぐあいになりまして、それで一時通行どめで通れないことがあったんです。それでそこを埋めて普通にしたんですけど、今通る方によっては、あそこに来るとドカンというと言うんです。

【林副座長】 玉川上水が曲がっちゃったんですかね。

【根岸座長】 上水のへり。

【永井委員】 上水と土手のところに落ちたんです。ですから川の水が。

【鴨下委員】 曲がったんでしょうね。

【永井委員】 曲がったんです。今ある、くら寿司の近くです。あの斜め前のあたりです。

【根岸座長】 それはいつのことか、日にちは。

【永井委員】 ですからこれだと思うんです。11月24日。

【根岸座長】 あっ、この11月24日。

【永井委員】 ええ、そこが一番最初に落ちました。

【鴨下委員】 そうすると、皆木先生の日記はそこまでまだ確かめられなかった感じだね。

【根岸座長】 そうですね。皆木先生は浴恩館を管理するのがお仕事でしたから、そこから離れるわけにいかなかったでしょうし。

【鴨下委員】 そうですね。

【永井委員】 その浴恩館にしても、ちょっと近いですね。

【根岸座長】 ああ、そうですね。

【永井委員】 そしてその後には小金井公園の中に落ちたんですね。

【根岸座長】 「教学錬成所は相当の被害あり」と、浴恩館の記事の次に書いてあるんですけども、この教学錬成所というのは。

【林副座長】 私も知らないです。

【根岸座長】 ああ、そうですか。

【永井委員】 国民錬成所のことじゃないんですか。

【鴨下委員】 今の光華殿？

【根岸座長】 光華殿のあたりですか。

【永井委員】 光華殿がまだできる前に、今、梅林のあるあのあたりに宿舎がありまして、そして国民錬成所といいまして、中学校の教員が研修に宿泊した施設があったんです。それじゃないかと思うんです。

【鴨下委員】 浴恩館のほうですね。

【根岸座長】 そうするとちょうど「教学錬成所は相当の被害あり」というのは、小金井公園に落ちたというこのようですね。

【林副座長】 浴恩館とは違いますね。

【鴨下委員】 ええ。

【林副座長】 ただちょっと見ると、あそこのことを言っているのかなと思いました。

【鴨下委員】 永井さんがおっしゃったのは、玉川上水のふちへ落っこちて、流れが変わったというような、かなり大きなことです。

【永井委員】 ちょうど今くら寿司の隣に、何か古着屋さんみたいのができていまして、その前に当たりますね。ですから、ちょうどスズキセイイチさんのお宅の裏あたりなんです。

【鴨下委員】 そうですか。

【根岸座長】 とりあえずこれが11月24日の空襲被害を裏づける資料でして、今出されております。

それから2番目に、昭和28年12月20日というのが検討資料の候補日に書いてありますが、それが手で書かれました12、13、それから小金井の町報を添付しております18までに当たります。

「小金井町戦争犠牲者慰霊碑の建設について」。「戦争による犠牲者の霊を慰めると共に、戦争の惨禍を忘れず、再びかかる不幸を繰り返すことのないよう、平和を祈念する記念碑を建設し、これを後世に残そうとする」という趣旨のもとに、昭和27年4月に町議会の全員協議会において講和発効記念事業につき協議をして、28年3月14日、町議会第1回定例会において慰霊碑建設費の支出を可決した。

さらに8月28日、町議会全員協議会において町長の計画案を説明し、全員の賛成を得るということで、裏に行きまして、下からちょっと上ですが、28年12月19日に竣工し、翌20日に除幕式及び慰霊祭を行ったというのがございまして、町報が載っておりますけれども、特に45とか17と番号が振ってあるところですが、29年1月20日に慰霊碑除幕式の町報がありまして、12月20日、小金井町の役場においてこのような、写真を見ると非常に盛大な慰霊祭を行っておりますけれども、そのようなことがあるというのが、この2番目の資料に当たると思います。

小金井につきましては、空襲の被害が確認できるのが、資料的には11月24日、また戦後まちが平和への思い、戦争への悲惨さを風化させないようにとする思いから、犠牲者の慰霊碑をつくった12月20日というのがございまして、参考としまして、各自治体の「平和の日」の制定条例というのが19以降ございます。

1は東京都の平和の日条例。3月10日で東京大空襲の日になる。

それから武蔵野市は平和の日条例、11月24日。これが初空襲の日で、先ほどの皆木先生の日記にありました、小金井にも落ちた11月24日と同じ日、これが平和の日と制定されている。

それから西東京市では4月12日。これは田無に中島機工場があり、そこで空襲の最大被害があったのが4月12日であるということで、空襲日誌の20年4月12日を見ますと、武蔵野町・保谷町・田無町と書かれております。

近くではこのような形ですけれども、長崎では当然原爆投下の日の8月9日。

沖縄市では沖縄における地上戦が終結した日の9月7日。

それから、沖縄県の北谷町。そこでは10月22日で、町民が戦後初めて村に帰ることを許された日。

それから岐阜県各務原市、ここでは6月22日で空襲の日。

その次、沖縄県、南風原町、そこでは昭和21年に南風原小学校で役所の業務が開始された日。村として機能した日ということでしょうかね。

それから秦野市では8月15日で、市民アンケートの結果、最も意見の多かった日。

大阪の枚方市では3月1日で、旧陸軍の埜野火薬庫が大爆発を起こして惨事となった日。

それから高知県高知市では、広島に初めて原爆が落ちた日というような形で、各自治体で平和の日を制定しておりますが、それぞれ大きくその意味が違っているかと思えます。

幾つかに分けますと、1つはその地域に大きな被害、空襲のあった日。

【林副座長】 それが多いですね。

【根岸座長】 そうですね。それからもう一つは、戦争が終結したり、村に帰ることが許されたりということで、新たな時代が生まれた日というのが2つ目ではないかと思えます。それから3つ目は、やはり一般的などいうか、世界的、あるいは日本規模の大きな画期となったような日という、そんな3つに分かれているような気がいたします。戦争の被害があった日か、新たに平和な時代がよみがえった日か、あるいは日本的、世界的な意味で大きな画期となる日という、そんな3つに分かれるんじゃないかと思えます。

その意味で、今日の検討資料に1として、昭和19年11月24日、空襲被害、それから28年12月20日、これは犠牲者慰霊碑の竣工、あるいは慰霊祭の日ということで、最初のもは先ほどの被害があった日、それから2番目のものは、新しい平和な時代が生まれたということと多少関係ありますけれども、それとともに戦争を風化させない思いというものをここに求めた日というような、そんな意味になるかと思っております。

それからあと、28、29、30、31と資料をつけていただきましたけれども、28については、鴨下委員に持ってきていただいた資料ですが、鴨下先生、何かご説明なり、これについてお話をいただければと思えますが。

【鴨下委員】 これは、何かこの前、第1回の様子から、場合によっては、戦争中のいろんな苦しかったことを風化させないということも、大いにあるんじゃないかと思えて。そうすると、ある日ということじゃなくて、そういうのを提示して、市民全般に読んでいただく資料になり得るんじゃないかという考え方です。私もちょっと師事した人なんです、戦後亡くなった富永次郎さんという作家がいるんです。この人は非常に純文学的な作品も書くと同時に、大変ルポルタージュ的な、事実を重んじた記録なんかも本にしておりますので、その中の1冊に『失われた季節』というのがあるんです。ちゃんとした出版物です。角川新書で、昭和31年7月に出版しております。

これはある人がちゃんと保存していて、私はそれを借りたんですけども、試しに小金井市立の中央図書館に行きまして、小金井に在住している作家なんかの本を集めているのかと話を聞きましたら、実はそういう意図もあるんだけどもないんですよとのことでした。その富永次郎さんの『失われた季節』というのは、実はないんです。それで、この辺でどこかあるかねと、これを持っていたので聞いたら、全部検索してもらって、西東京市の、資料じゃなくて一般の図書館棚にたった一冊ありました。ということで、それじゃ小金井にはなくなっちゃうなという危機感も持ったんですけど。

なかなかおもしろいというか、なるほどということで、今、この遺族としては富永一矢さんという人がいるんですけども、その一矢さんと弟さんを疎開させるつもりになった動機は、やっぱり中島飛行機三鷹研究所へ爆弾を落とす始めて、これは危ないということなんです。夫人の一族がいる足利でしたかね、そっちのほうへ疎開させたときの両者の日記や手紙の交換なんです。そういうような内容で角川新書から出ていたんですけど、富永さんという人は京大で美学科に行っていました。なかなかおもしろいスケッチもあるんです。

それで、戦争中ってこんなだったんだなという、しかも小金井と足利の子供たちとの往復ですから、多少そういうことも話題になるんじゃないかと思って届けておいたら、一部分だ

け収録していただいたんです。せつかくそういうのがあるのに。もうこれは絶版です。何かで調べたら7,000円するそうです。

そういうのを少し小金井で資料として市民に紹介しましたよと言えば、出版社が、じゃ、採算がとれるんじゃないかと再販するんじゃないかという望みもあってお持ちしたんですが、もし良かったら、委員に回し読みしてもらえば。

【根岸座長】 ありがとうございます。この29を見ますと、後ろから5行目あたりに、これは父というのが富永次郎さんで小金井におられて、一矢さんという息子さん足利におられたということですね。このあたりで、小金井は何でもないということも書いてある一方で、「二十五日の空襲の夜は」と書いてあるんですが、この「二十五日の空襲」というのは何月、7月25日でしょうかね。

【林副座長】 5月25日。

【根岸座長】 5月25日ですか。

【永井委員】 5月25日が大きかったですね。

【根岸座長】 ああ、そうですか。

【鴨下委員】 これは「高射砲の破片が家の庭にたくさんおちた」と書いてありますが、富永さんの家から300メートルぐらい、いわゆる今の野川公園、野川のところにちょっとした高射砲陣地があったんです。一個分隊ぐらいの隊員が壕舎生活していたんです。そこで盛んに撃ったわけですね。届きもしなかったんですが。その辺に落ちたんですね。

【根岸座長】 5月25日を皆木日記から見ますと、7の一番下段の右側に3行ほどあるんですが、「五月二十五日。夜、空襲となる。B29二百五十キ、下村先生宅新宿方面」。下村湖人の家が新宿方面にあった。「帝都大方は焼けたり。読売新聞も焼失。青年館職員多数罹災」というような。今の青年館は代々木ですか。

【鴨下委員】 青山ですね。

【根岸座長】 そういう形で、下村湖人ですとか、あるいは新宿方面を心配しておりますけれども、もうなれてきたせいなんではないでしょうかね、小金井に関する記録は書かれていないですね。

【鴨下委員】 これはだから小金井の上空を通過していった。大体B29は富士山から北上しまして、それからこっちへ曲がってきましたから。

【永井委員】 コースとしては小金井公園の上が。

【鴨下委員】 コースを通過してずっと。シラミみたいに見えたものですね。

【根岸座長】 それで高射砲を。

【鴨下委員】 高射砲を。もう届きもしないんだけど撃った。それが富永さんの言われたようにばらばら落ちてくるんです。私はもう小金井にいなかったんですよ。これは相当大的な空襲だったんでしょう、3月と5月は。

【根岸座長】 この5月25日の空襲については、永井先生や林先生は何かご記憶ってございますか。

【林副座長】 高射砲の破片がたくさん落ちたときがあるんですよ。多分これでいくと5月25日のことかなという感じがしますね。この5月25日は「東京空襲日誌」を見ると、立川市とか北多摩郡国分寺町・調布町・三鷹町・小平町・田無町・谷保村・狛江村、いろいろ並んでいるけど小金井が出ていないですね。

【根岸座長】 ほんとうですね。

【林副座長】 軍事都市でも軍需都市でもなかったですから。確かに陸軍技術研究所とか燃料廠の一部がかかっているということはありませんけれども、ほとんどのものが田無、保

谷にある中島飛行機、あるいは武蔵境にある中島飛行機の工場とかいうところを狙ったので、小金井は、直接空襲や爆撃の被害があったという認識の中に入らないんじゃないかと思うんです。

これは事務局のほうにお尋ねするんですが、事務局のほうで今日、少なくとも日を決めてほしい、この前そういうお話がありましたね。

【天野広報秘書課長】 はい。

【林副座長】 いつまでも議論して意見の交換ばかりやってもこれはしようがないと思うんですけど、その辺を何か少し進捗するように考えたほうがいいのかなと思います。

【根岸座長】 ありがとうございます。永井先生、いかがですか。この25日のことは。

【永井委員】 25日。

【根岸座長】 はい。

【永井委員】 私は短歌でつづつてあるから記録になるかどうかわからないんですけど、もうものすごかったんです。今の小金井公園が、まだ緑地帯というときに落ちましたから。250キロ爆弾ですか、それが落ちましたので、ものすごかったです。

【根岸座長】 5月25日にも小金井公園に爆弾が落ちた。

【永井委員】 私、勘違いして4月かなと思ったんですけど5月だと思うんです。

【根岸座長】 そうですか。

【永井委員】 当時の日記は、先日申しましたけれども、破片が物置の屋根に落ちて、雨ざらしになっちゃったんです。それで確かなことは、もう慌ただしくて覚えていないんですけれども……。ごめんなさい、時間かけちゃって。

【根岸座長】 いえいえ。

【林副座長】 ほんとうは手続の進め方としては、この委員会を構成する前に、市のほうで、市民に平和の日を選ぶとするといいかみたいなアンケート調査をしてみるとよかったですね。そういうことはなかったんですか。

【天野広報秘書課長】 はい。そういった想定はなかったです。

【林副座長】 平和の日を決めてからアンケート調査するのもおかしいですね。ある程度市民の総意というか、そういうものがつかめるとやりやすかったかもしれない。

【永井委員】 ここに昭和20年5月というのがあるんですけど、それは「学び舎はかりそめの名がいくさばた明日おもしれぬ友と伏せおり」、これが当時の爆弾が落ちて伏せているときの記録なんです。20年7月、「明るる日も来る日も敵機襲いきて一人二人と友は逝きけり」。友達もみんな減っていってしまいましたから、そんなのを書きとめておいたのがこれなんですけれども、もうぼろぼろになっちゃったんです。ですから多分5月25日はひどかったと思います。

【根岸座長】 ああ、そうですか。ありがとうございます。

とりあえず資料だけ一応確認していこうと思ひまして、30、31、32につきましては永井先生のご意見と、あとは21世紀100人の自分史ですか、それに書かれた先生の手稿がここにあるんですが、これについて永井先生のほうから、ご説明をもしいただければ。

【永井委員】 いや、説明なんていうことではないんです。お読みになっていただくのがお恥ずかしいんですけども、もうこのときは無我夢中で避難しておりましたので、そのときに私どもを助けてくださった学生さんがものすごく大きく見えたんですけど、その方に名前も聞かずに、ありがとうございますだけで別れてしまって、今でもまだ、お名前を聞いて、後で手紙でも出せばよかった、申しわけなかったなと思っております。ですから、当時は命の恩人と思って過ごしてまいりました。ですからやはり、ありがたいという気持ちを

大人になっても忘れちゃいけないなど、自分に言い聞かせながらまいりました。今お返しに、通学路で立って見守りをやっているんです。

【根岸座長】 ああ。ありがとうございます。

じゃ、資料の確認は終わったんですけれども、林先生がおっしゃったように、平和の日の候補をできれば考えていきたいということで、先ほどから話がありますように、とりあえず昭和19年1月24日が、確認できる場所では最初の空襲被害があり、人の被害は幸いなかったにしても、それなりに大きな被害が大きかったということ。

それから何回かあったでしょうけれども、少なくとも東京都の戦災空襲日誌ではそれほど確認できなくて、わずかに20年1月27日に、これは小金井駅の近くに爆弾が落ちた記録があったということです。

ただ先ほどのように、5月25日は大きかったということですが、少なくともこの空襲日誌からはそれは確認できない。

そうした戦争の被害があった日というものと、それからもう一つは、昭和28年12月20日に、戦争の悲惨さを忘れないため、風化させないために、戦争犠牲者慰霊碑を竣工し、慰霊祭を小金井町が町を挙げて行って、そうした平和に対する思いを深くしていった。その昭和28年12月20日、このあたりが今の資料によりますと、とりあえず平和の日に、小金井の地域ということを考えるのであれば相当するかと思われまして、一方で林先生のおっしゃったアンケートということを重視していくと、例えば先ほどの平和の日条例の秦野市の8月15日とか、高知市の8月6日とか、そんなところにも及ぶのではないかと思いますけれども、このあたりで、今までの資料を考えた上でご意見はいかがでしょうか。

【林副座長】 要するに自説にこだわるつもりは全くありませんけれども、私なりの見解というのは、きのうの夜ちょっとまとめてみたんです。

【根岸座長】 あっ、そうですか。

【林副座長】 それをコピーして読んでいただいて、これが私の考え方だということでご理解いただければありがたいと思います。私の基本的な考え方というのは、戦後何十年もたって、もう67年か、戦中から数えれば、もう70年ぐらいですよ。そのぐらいの間に当たって、当時のことについてこだわって、何かあったときに特化してその日を選ぶというのは、今の時代になってなかなか無理があるんじゃないかと。

それよりもここで決めるわけですから、今日的な時代要請の中で日を選んだほうが賢明なんじゃないかなと、基本的にはそういう考え方なんです。ちょっとそういう視点からまとめてみたんです。いつまでもこれは意見を交換してもらわなければならないですから。かなりいろいろお話も伺ったり告白したりしたので、それなりの日を提案というか、それぞれみんな自分の考えている日を述べ合って、それで調整していったほうが早いかなとちょっと思ったりして。

【根岸座長】 会議を進めるのは非常に重要なことです。

【林副座長】 事務局のほうもきつとやきもきしているんじゃないかとちょっと思っ

【鴨下委員】 いいですか。確かに町としても慰霊祭、慰霊碑が建っておりますし、随分たっちゃって、当時の人もほとんどいなくなり始めて、改めて日を特定するというのは難しい面があると思います。その辺も市長さんが言った、悲惨さ、あるいは平和の尊さ、風化させないという意味合いにするとすれば、日を特定するというのはなかなか難しくなるんじゃないか。

やっぱり風化させないで、ここで市としてそういうものを保存して、どこか学校の図書館とか市の図書館でそういうものを残していくと。それで平和を思い出し、みんな平和のもの

を読まれたらいかがかと。そういう形にしないと、結局市民アンケートをとっても、今いろいろな案が出ちゃうと思うんです。我々が、全国民に降りかかった悲惨さ、それから負けてほっとして平和が来たわけですけれども、その風化させないという市長のあの意見の中では、それが非常に私は大事にしたいんです。

【林副座長】　ほんとうに平和の日を決めるとするのは、正直言いまして、今の時点で大変悩ましいですね。

【根岸座長】　そうですね。

【林副座長】　ただ、市長が挨拶の中で、戦争の悲惨さ、そのものを風化させちゃいけないという気持ちで提案しておるとおっしゃっていましたから、その気持ちは大変尊いものだと思うし。

【鴨下委員】　それに、永井さんにいろいろお聞きすると、戦争時代に非常に苦勞して育ってきたと。戦後もみんな苦勞した。食べ物も衣類も。そういうことを機会があるごとに後の子供たちにしゃべって感謝されて、あの話は私は実際実践者として偉いと思います。そういうことをやれるような動機づけや習慣なりをつくることは大いに意味があると考えています。

【永井委員】　小金井も一時期盛んだったんですよ。それでここに挟んであったのを見たら、私がガールスカウトに頼まれて行っただけですが、今の子供はぜいたくになれてしまっているからということで、講演した後にすいとんを食べさせてくれということで、昔の質素な味を味わって、今の子供たちに考え方を改めさせてほしいということがあったんです。ですから、しゃべった後にみんなすいとんをいただきました。

学校で頼まれたときもやはり後で、すいとんのごほうびがありますということで、すいとんのつくり方も教えまして、それで一緒に食べました。すごく子供たちは盛り上がったんです。ですから、やはりそういう気持ちはみんなどこかに潜んでいると思います。

【林副座長】　やっぱり一種の風化だと思うんです。

【永井委員】　そうですね。

【林副座長】　確かに語り部たちがいろいろ体験を語ったという時代が、小金井でもありましたよね。

【永井委員】　はい、ありました。

【林副座長】　今全くそれが失われてしまったというのは、そういう風化だと思うんです。

【永井委員】　そうですね。もう語り部といっても語る人がいなくなっちゃいますから。

【鴨下委員】　だからそういう意味では、野川公園の2つの池の野鳥観察場。あれは明らかに爆弾遺跡なんです。そういうのもとり入れたりですね。

【根岸座長】　いえいえ。

【永井委員】　推敲もしていないからお見せするのは。

【鴨下委員】　確認するような日に遠足してみるとか、そういうこともあり得ると、そう思って。

【根岸座長】　林先生のお考えは、3月10日の東京大空襲。

【林副座長】　いや、それは特化した場合。

【根岸座長】　した場合ということですか。

【林副座長】　そうでなければ、私は憲法の発布記念日がいいと考えている。

【永井委員】　そうですね。

【林副座長】　ちょっと長い文章じゃないから読んでみましょう。そのほうが早いと思う。「市長の挨拶の中にあつた、戦争体験を伝え、そして平和の尊さ、戦争の悲惨さを伝えてい

くのは、戦争体験世代の我々市民の責務であり、義務である。小金井には陸軍技術研究所や燃料廠などの軍の施設があったけれども、実態として軍事・軍需の都市であったとは言いがたい。したがって、小金井プロパーの」、プロパーという言葉は小金井固有という意味で使っていますけれども、「小金井固有の被爆体験というほどのものはなかったと言えるのではないか」。これは私の認識なんです。

「現時点での小金井の人口構成を考慮すれば、当市は全国から東京に出てきた人々の集積した多様性に富んだ典型的な住宅都市で、当時小金井で戦争を体験した住民の割合は、現在は極めて小さいのではないかと推察される。こういう背景を考慮すれば、普遍的な視点で『平和の日』を選ぶことが賢明ではないかと思う。小金井に特化して無理に平和の日を定めると、『平和』に対する視点が狭くなってこないか。小金井自体の体験にこだわって、無理にその日を選んだとしても、市民の理解や共感は得られないと思われる。常識的、普遍的な日を選ぶべきではないだろうか。

戦後、日本は平和国家として平和憲法を戴き、国の繁栄と国民生活の安定を築いてきた。その先導者となった歴代の国のリーダーをはじめとする先人の知恵と見識を称え、これを継承していく責任を私たちは果たさなければならないと思う。

小金井の市民にとって、いつを平和の日とするかについては極めて悩ましい問題ではある。人それぞれによれば、それは終戦の日であり、引揚者にとっては日本に引き揚げてきた日であり、講和条約を結んだ日であり、はたまた原爆が落とされた日であり、平和憲法と言われる現憲法発布の日であり、沖縄返還の日であったり、はたまた安保条約締結の日……であるかもしれない。しかし常識的、普遍的な日を選ぶとすれば、市民の理解と共感の得られる日は、『平和憲法発布の日』がふさわしいのではないだろうか。

翻って、小金井にとって身近で象徴的で悲惨な戦争体験をといえば、それは昭和20年3月10日の東京大空襲ではないか。小金井は東京圏の一角にある。多かれ少なかれ東京大空襲の悲惨さは、当時の住民の心と生活に大きな影響を与えた。広大な東京の住宅密集地を、爆弾ではなく焼夷弾で灰じんに帰すという無差別爆撃によって、7万人とも言われる東京の無辜の民の人命が失われた。これを戦争の悲惨と言わずして何と言うべきか。再びあってはならないことである。もし小金井に特化できる身近な日をといえば、それはこの日、『昭和20年3月10日』をおいてほかにはない。

いずれにしても平和の日を選ぶとすれば、小金井が平和憲法のもとで、そして国家の繁栄と国民生活の安定のもとで、全国から人々が東京圏に集中して形成された、全国の縮図とも言える多様な人口構成による典型的な住宅都市であることを考慮すれば、そして多くの市民の理解と共感の得られる日とすれば、それはやはり平和の日は、国民の普遍的な認識の日と一致せざるを得ない。その日は平和憲法発布の日である。仮に小金井に特化すべきと考えたとしたら、それは昭和20年3月10日の東京大空襲の日ではないか」。

たまたまさっきの資料で、東京都が東京大空襲の日を平和の日としているんですね。私の考え方はこんな考え方で、こういう資料をいただく前に書いたものですから、これをいただければもっと書きようがあったかもしれませんが、いろいろ議論していても仕方がないので、皆さん方がそれぞれ自分の思いの日を述べ合って調整したほうが早いのかなと、ちょっと思うものですから。大変差し出がましくて推敲もしていないのは申しわけありませんけど。

【永井委員】 あのとときの恐ろしさは、私なんかも大きかったですけれども、13歳でしたか。それで小さい子も、ここで燃えていると思っていましたから。遠くじゃないんですね。

【林副座長】 私は小学校が燃えていると思いました。

【永井委員】 そうですよ。ですから私の家のほうで言いますと、新小金井橋まで燃えてきたと言ったんです。ですからもう、すぐそこに見えまして、まさか東京だけが燃えているなんて思わなかったですから。かなりのお年の人までわかっていると思います。

【根岸座長】 非常に貴重な意見をいただいたんですけれども、ここではどうでしょうか、いくつかの候補を選んでというか、候補を挙げて、その形にして、あとはパブリックコメントに委ねるか、その後考えるか、あるいは1つにまとめるということも考えられるんですが、今のお話を聞きますと、それぞれもっともな意見も多くて、1つにまとめるというのはちょっと難しいのではないかと思えるんです。

【林副座長】 いろんな平和の日についての見解があると。幾つかの事例を挙げてみて、市民の皆さんはどうでしょうかと、何かそういうパブコメをとというのはよくあるの？ 8月までに議会提案したい、提起をしたいみたいな話だったね。だから、そう簡単に時間をとっていいわけじゃないんじゃないかと思ったわけですよ。

【根岸座長】 今のお話ですと、小金井にそういう意味で特化しないということであれば、3月10日か、あるいは5月3日。それから小金井に特化するとすると、11月24日か12月20日と。いずれもそれぞれ意味があるものだと思いますが、ここでお一人ずつお話を聞いて、それで決まるかという、決まらないんじゃないかという気がするんです。

【鴨下委員】 林さんがこういう案、一つの意見を出されたんですが。

【林副座長】 何回も言っていますが、要するに案ではないんです。私の個人的な見解、私見のもとで述べただけですから。提起じゃありませんから。

【鴨下委員】 その見解で、5月3日というと憲法記念日となっていますよね。そこに合わせて平和の日というのは、何かいろんなことに絡まる懸念があるような気がするんです。平和憲法を守るとかいろいろあるし、これを何て位置するかもあるし。各自治体を見ると平和の日ということで決めちゃってありますけれども、内容的には平和を考える日という意味だと思うんです。

そうしますと、私なんかは小金井の人たちが非常に心配したり驚かされたり、事後処理に警防団の人が派遣されたりした3月10日の大空襲あたりのときをもとにして平和を考える。そしてなるべく平和を考えるようなことの道筋ということだったら、永井さん及びその他の人がやっている、後世の、後から来る人たちに、そういうものを伝えられるものを残しておくべきじゃないかという気もするんです。

私たちが小学校の3年生の特別時間に合わせて、昔遊びを伝えるということをやっているんです。大分最近では学校の先生たちもよく内容がわかってきて、子供たちに向かって、「ねえ、みんな、昔の人は物のないのをどうやって工夫して遊んだかよくわかったね」ということを言ってくれるんです。それで必ずその日に書く。お礼の文ですかね。それが毎年1週間以内に冊子にして送ってくるんですが、最近の子供たちはそういうことをかなり書いているんです。「昔の人は、ないものの中で遊ぶ工夫を随分していたんだな」という文章が目立ちました。だからああいうのは私は、ばかばかしいようなことを残していったいいんじゃないか。

平和についてもそうだと思う。永井さんが言っているような、苦勞を話されたのはいいことだなと思うんですが、なるべくそういう実質的なものにしていったほうが、ああだこうだ議論で沸き返るようなことはないの、いいんじゃないかなと思うんです。

【根岸座長】 永井先生のご意見はいかがですか。

【永井委員】 いや、別にありません。

【根岸座長】 平和の日について。

【永井委員】 平和の日というよりも、鴨下先生がおっしゃったように、平和を考える日、そんなふうだったらどれにでも当てはまると思います。

【林副座長】 結局平和を考える日なのでしょう。その日の行事をいろいろどういう施策をやっていたらいいかを検討するというのは、役割に与えられている。

【根岸座長】 私も憲法記念日ってすばらしいと思うんですけども、今何かきな臭くなっているところもあって、だからこそ言う必要があるということもあるかとは思いますが、政治的な思いで利用されるのもという……。

【鴨下委員】 そうなんです。そういう感じが。こうなりますと、各自治体の平和の日というのは、かなりやっぱり戦争でダメージを受けたとか、平和を身にしみて感じたところが多いですね。

【根岸座長】 そうですね。

【鴨下委員】 大阪の枚方なんていうのは相当やられたわけでしょう。

【根岸座長】 一番大きいのはやっぱり大きな被害があった日というのが強いですよ。

【鴨下委員】 ええ。そうするとそれは小金井にはないようなんですよね。

【林副座長】 役所の前のあそこに慰霊碑がありますよね。あの慰霊碑は民間人も含めた慰霊碑でしたかね。たしか兵隊さんの戦死した人たちの慰霊碑でしたよね。

【根岸座長】 あっ、軍人だけですか。何か戦争による犠牲者の霊を慰めるということが書いてあるので。

【林副座長】 それはわかっているんですけど、たしか戦死した人たちだけじゃなかったかなと思うんですけど、違うかな。

【永井委員】 昔は町葬というふうにやっていたからね。

【林副座長】 戦争の民間人の人たちというのがどうだったかな。ただ私は、自己の良心の命ずるところに従って見解を述べただけなので、政治的な情勢がどうだとか、そんな考え方はしんしゃく無用でやっていますので。

【根岸座長】 戦没者というと、必ずしも軍人だけではないような気はするんですが。

【林副座長】 町報の内容をよく読んでみれば出ているのかもしれないですね。

【鴨下委員】 字が小さくて読めないけど。

【林副座長】 先に戦没者の追悼式というのをやっているんですね。その延長線だと思うので。「當町戦没者三百五柱の氏名を挙げ」となっているから、やっぱり兵隊さんじゃないですか。

【根岸座長】 兵隊を中心。

【鴨下委員】 戦死公報を中心にやったんでしょうね。

【林副座長】 もっとも民間の人で戦争の犠牲になったという人は。

【根岸座長】 あまりいないからなんですかね。

【鴨下委員】 民間まで入れるとちょっと区切りがつかなくなりますね。

【根岸座長】 ああ、「三百五柱」と書いてあると、そうですね。

【林副座長】 そうすると、この「三百五柱」というのは、日露戦争が入っているんでしょうかね。

【鴨下委員】 いえ、違うでしょう。

【林副座長】 第2次世界大戦だけ。

【鴨下委員】 日露戦争のは小金井神社にありますね。これは名前が刻んでありますね。

【林副座長】 305人というのは多いですね。

【鴨下委員】 これは市史編さんのほうでも一生懸命やっているんじゃないですか。戦死公報は何名とか。

【永井委員】 加藤隼戦闘隊の隊長さんは小金井だったんですよね。

【鴨下委員】 多摩墓地に墓はあるね。

【永井委員】 私、お葬式に学校から言われまして行ったんです。

【鴨下委員】 行ったとは思わなかったね。でも小金井市民、慰霊祭……。

【林副座長】 小金井の住民とは聞いていませんね。多分墓があるので行ったんじゃないですか、埋葬のときに。

【永井委員】 桜町1丁目に……。

【根岸座長】 お住まいがあったんですか。

【永井委員】 そこでお葬式をやったんです。

【鴨下委員】 それじゃそこですね。

【永井委員】 私、学校で代表が何人かいたんですけど。

【鴨下委員】 じゃ、その305柱に入っているかもわからない。

【根岸座長】 そうですね。そうすると、確かに12月20日は、形としては戦没者ですけども、軍人だけとなると。

【鴨下委員】 多分そうですよ。それ以上は国にどう扱われたか。

【根岸座長】 確かに。言われるとそうですね。そうすると、例えば11月24日と3月10日あたりが今のあれになるということですかね。

【鴨下委員】 その辺が候補でしょうね。

【根岸座長】 そこに5月3日を入れるかという。

【永井委員】 憲法で何だかんだやっていますからね。

【根岸座長】 そうですね。確かに……。

【鴨下委員】 大空襲あたりが平和を考えるという意味ではいいんじゃないかなと思いますね。

【根岸座長】 悲惨さを訴えるというところは、やっぱり平和を考える一つの大きな問題ですよ。

【鴨下委員】 あ那时候は2階建ての小学校もガラス窓が真っ赤に見えたと、林さんがおっしゃったけど、ほんとうにそうだと思うんです。小金井市民全部、あの真っ赤な東京の空を眺めて、いろいろ切歯扼腕したのでね。

【永井委員】 あれを見た人は忘れないと思います。

【鴨下委員】 忘れない。それからその後、記録としては残されていないかも知れないけど、死体処理に行ってやっている人がいるんだから、ちょっとやっぱり大きな事件ですね。

【林副座長】 私は大学に行っているときに平和学というのがありまして、その講義を受けたんですけども、そのときの本が4冊あるんです。その中の1冊に世界の空襲の話が出ていて、ドレスデンの空襲と50日間にわたる南京の空襲と、それから東京大空襲が、大虐殺の3つの例のトップに挙げられているんです。東京はたしかに無辜の民を、軍じゃなくて焼夷弾でやられちゃったわけですから、ちょっとこれはひどいんだな、残虐だなと。戦争の悲惨さ、それが戦争だということで、やっぱり意味があるのだなと思いました。

【鴨下委員】 私の友達なんか、家が大部分やられたんです。動員中ですから二、三日たって出てきて、おれのところのレコードなんて1万枚近くあったのに全部焼けちゃって、灰が積もっているんだなんて、いろいろそういう話をして、さばさばしたなんて言っていたけど、みんな最初の3月とかの大空襲は、新聞なんかはそういう論調でしたね。さばさばして。

ますます戦場的。だけどそうじゃないですね。気持ちは非常に悲惨ですよ。

【林副座長】 この間、前回のときも鴨下さんのお話を。お兄さんの栄一さんが死体の処理に行って、死体をリヤカー、車の上に上げるとカサカサと音がするという、何か非常に悲惨な話ですよ。人間はそうなるのかなと。

【鴨下委員】 一日中死体のおいをかいでいたら飯が食えなくなったと。

【林副座長】 やっぱそういうことは二度とあってはいけないと思いますね。戦争を考えることは意味がある。

【鴨下委員】 ありますね。

【永井委員】 夜の空襲には、最初に照明弾を落とすんですよ。それで明るくしておいで爆弾を落としますから、もうすごかったです。

【林副座長】 僕は7万人と書いたけど、ちょっとろ覚えではっきりしない。たしか記録で東京大空襲で死んだ市民の数が7万人と理解していたんだけど、もし違っていたら直してください。関東大震災が10万人だったと思うんだけど。

【根岸座長】 ええ、そうです。

【林副座長】 それより3万人少なかったといっても。

【天野広報秘書課長】 「東京空襲日誌」では8万3,793名。

【林副座長】 死者？

【鴨下委員】 5月と両方合わせてですか？ 5月も相当やられたんだよね。

【天野広報秘書課長】 5月のときには3,242人。

【鴨下委員】 その程度だったですか。

【林副座長】 私は別にそれにこだわりません。私見としては、少し特化して考えれば、そこへかかってくるのかと。提案ではありませんけれども。

【根岸座長】 貴重なご意見だと思いますので、今の話も入れて、それで先ほど言いましたように、12月20日の戦争犠牲者慰霊というのは、結局軍人だけと考えると、やはり民間もたくさん入っている、その東京都の3月10日か、あるいは人的被害は幸いなかったものの、この地域もやはり戦争に巻き込まれたんだということがわかる11月24日、そのあたりを2つ候補に挙げておくという形では、これから進みませんか、事務局のほうで。

【天野広報秘書課長】 一応事務局としては日を定めて、こういう理由でこの日を平和の日にしましたといった内容の案文をつくって、それでパブリックコメントにかけたいというのはあるんです。パブリックコメントということになると一定方針を示して、それに対する意見をいただくという形になるのかなと。

【根岸座長】 例えば今の全体のお話の中では、11月24日より3月10日のほうが、意味があるという内容ではなかったかと思いますが、3月10日を一応つくっておいて、こういう意見もあったと併記しておくというのでは答申にはならないですかね。

【天野広報秘書課長】 ちょっと1つ気になることは、市民の立場から見たときに、小金井市民の方はイコール東京都民であるわけで、東京都民として1つ、平和の日というのがある中で、同じ日を小金井市平和の日ということが、ちょっと事務局としてはどうかと思うことはあるんです。この日が重要なのは非常に事務局としても理解していて、でも小金井市で過去につくった戦争被害の体験集みたいなのがあるんですけど、それにもやはり3月10日についての記述が非常に多くて。

【根岸座長】 そうでしたね。

【天野広報秘書課長】 その当時、下町のほうに住んでいらっしゃった方が被害を受けたときの話を語っていて、今現在小金井市民の方ですとか、あるいは仕事か何かで東京に出ている

って被害を受けたとか、そういう記録は非常に3月10日というのは多いので、そういう意味で重要だという思いは事務局としても持っています。

小金井市も、大きな記録としては残っていないんだけど、巻き込まれていたことを風化させないという意味では、11月24日というのが唯一残っている日というのはあるかなとは思いました。

【根岸座長】 いかがでしょうか。

【鴨下委員】 もう記録として残っていますね。

【根岸座長】 そうですね。何か理由をつけて3月10日にもならないだろうかという気もするんですけども。

【林副座長】 私は事務局長——この会議の事務局長ということでもいいですね——の見解というのは、同じ日がダブっているのがおかしいという見解はおかしいと思うんです。そういう見解に縛られていると、例えば小金井と国分寺が並んでいて、両方に爆弾が落ちた場合、両方が同じ日をやった。それはおかしいということになりますか？

【天野広報秘書課長】 いや、国分寺と小金井だと別の自治体なので、小金井市民は国分寺市民じゃないというところで大丈夫かなと思うんですけど、もう既に小金井市民は東京都民でもあるというところでは、都の条例で決まっている同じ日というのがどうか。必ずしも否定するところではないんですけども、気にする人がいるかなと、ちょっとだけ思ったんです。

【林副座長】 ただ、この自分のまちに爆弾の落ちた日を記念日にするって変な考え方だね。私にはそれがちょっと理解できないんですよ。

【永井委員】 ここを見ますと8月15日というのは神奈川県だけなんですね。

【天野広報秘書課長】 平和の日として制定されているところが、調べた範囲では。ただネットで調べただけです。

【永井委員】 終戦記念日ですね。

【根岸座長】 多分市民アンケートの結果こうなったというのはやはり、今、若い人たちが考えたとおりに納得できる場所ではありますね。東京都は条例が確かにあるんですけども、それに全く反対のことをやるのではなく、独自にもっと平和を積極的に考えようと、そういう考えをもしきちんと出すんだったら、3月10日でもいいのかなという気もするんです。

【林副座長】 市長の考えだとか。ほんとうは市長が出てくれば。

【根岸座長】 そうですね。

【林副座長】 どう考えているか、というようなことは聞きたいとは思っていたんですけども、何かそういうことは聞いていませんか。

【天野広報秘書課長】 特段この日をとという意向はないということでしたけど、とにかくどこか日を決めて、風化させないための何かをしたいということでした。

【鴨下委員】 どちらかといえば、風化させない何かをやっていくということのほうに、大事な点があると思うんです。日を決めちゃうということよりも。

【根岸座長】 だから市が独自にいろんな催しなりをやるんだという意味での日にすれば、それはそれで理由が立つんじゃないかという気はするんです。

【林副座長】 小金井市も独立した自治体ですから、東京都の傘下の自治体といえば自治体かもしれないんだけど、東京都は都道府県の一つだけ。小金井市は小金井市の自治体という立場でやっていくと、必ずしも結びつけて考える必要は僕はないと思うんです。そんなことを言うと自説に固執しているみたいに思えるけど、そうじゃなくて、この資料を初めか

らもらっていても、私は3月10日と多分言ったと思うんです。

【根岸座長】 確かに今までにいろんな体験集を市でもつくってきたわけですがけれども、その大半はやっぱり3月10日のが……。

【鴨下委員】 多かった。

【根岸座長】 多かったですよね。だからそれを考えたときに、市民の中でもやはり3月10日に特別の思いを持っている人が多いということにもつながると思うんです。

とりあえずこの検討委員会の考え方では、3月10日ということではいかがでしょうか。

【林副座長】 何度も言うように、私も提案というわけじゃありませんし、別にそれに固執するつもりは全くありませんので、皆さん方のそれぞれの視点に従った意見で調整すればいいと思います。

【鴨下委員】 この日に制定されたときのこの4人の意見を、全録みたいに付すことができるんですか。そんなことなしに日を決めろということなんですか。

【天野広報秘書課長】 どういう……。

【鴨下委員】 だから、同じ日になっちゃったとしたら、なぜ3月10日にしたかと。それには、小金井市には11月24日に爆弾が落ちこちてくる、そのほかあっちにも隕石みたいなのが落ちこちていると。しかし、その後もずっと小金井のことを考えると、やっぱり3月10日に小金井市が大変だと誰しもが思って、その日が一番出発点みたい。出発点というとおかしい。

したがって、いろんな平和的なものを風化させないためには、この日あたりを中心にして起こった事柄をちゃんと、この日に決めた記録として残しておきたい、そんなような文章にして出すわけにはいきませんか。

【天野広報秘書課長】 文章はこれから考えさせていただきますけれども。

【鴨下委員】 大体だけ私なんかは、決めるとすればそういうふうな、みんなが風化させない思いを語り伝えていくというのを中心に選んだ日であると言いたいです。

【天野広報秘書課長】 各自治体で差はあるんですけども、こういう理由でこの日を平和の日に定めるみたいなことを前文で入れている条例が多いので、その書き方の工夫だと思うんです。

【鴨下委員】 武蔵野や西東京はもうこれは明らかに理由がある。

【天野広報秘書課長】 あと、どういう理由でこのメンバーでこの日に決めたかという部分は、条例の前文そのものには載らないですけども、この会議自体を全文記録で議事録に残していますので、そこには経過は残る形になります。

【鴨下委員】 11月24日は記録的には皆木先生の日記もあるということではっきりする。そこ一面、何か今言ったように前文をどうやって書いたらいいんだという。ただ落ちこちたのを思いながら、これが平和につながったと。つながってはいったわけですけど。

【永井委員】 知らない人のほうが多いでしょう。

【鴨下委員】 多いでしょうね。

【根岸座長】 ああ、そうですね。一方で3月10日は反対に、小中学生はみんな知っていますよね。

【永井委員】 もちろん。

【天野広報秘書課長】 秦野市なんか憲法記念日だったりとか、市民の日だとか、幾つか候補があった中で、やっぱりここにも書いてあるとおり、誰でも知っている、わかりやすいという理由で選ばれたというのは確かにあります。

【根岸座長】 それでは、一応ここでは3月10日を候補としたいということによろしい

でしょうか。

あと、意見を併記できるのであれば、「11月24日ということも考えられるけれども」ということを一言書いた上でやっぱり、平和を風化させない、誰でも知っている、一方で、今まで市でつくった多くの戦争体験集というものも、3月10日の東京大空襲が一番記述が多かったという思い、また小金井が人口の構造化によって、いろいろなところから人が入っているけれども、そういう人たちの思いの中にも3月10日が文集の中ではやはり大きな日になっている、そんなところで考えてもいいのではないかと思いますし、東京都でもさまざまな行事があるけれども、さらにそれに加えて若い人たちに戦争の被害、あるいは平和への願いを風化させないというのは、それが重なることによってかえって効果が高まるかもしれないというのは、確かにあると思うんです。

都の事業に市も参加はしているんですか。でも都でやっているのは慰霊祭ぐらいですか。

【林副座長】 いいですか。

【根岸座長】 はい。

【林副座長】 このいただいた条例資料をちょっと見てみても、ほとんどみんな記念行事を行うということで集約していて、具体的な施策の中身というのは出てこないんですね。具体的な中身がどんなことがされているのかというのは調べることはできるんですか。

【天野広報秘書課長】 それはできると思います。

【林副座長】 そうしたらそれも一覧にできるようにして、次回ぜひ。

【根岸座長】 ああ、そうですね。

【林副座長】 できたら当日の配付でなくて、事前に配付していただけたら配付していただきたい。

【根岸座長】 少し前にいただけたら。

【林副座長】 ご配慮いただきたい。

【根岸座長】 じゃ、平和の日については、そのような形で3月10日を候補としたいということよろしいでしょうか。

あと、次の開催ですけれども、今後の予定をちょっと事務局のほうから。

【天野広報秘書課長】 一応事務局のほうで仮に押さえたのは6月2日と5日になるんですが。

【根岸座長】 2日と？

【天野広報秘書課長】 6月2日と5日です。

【根岸座長】 いずれも9時からよろしいですね。

6月2日月曜日の9時からと6月5日木曜日の9時からという案が出ておりますが、先生方のご都合いかがでしょうか。

私は2日でしたら午後でも構いません。

【永井委員】 私も午後からです。

【天野広報秘書課長】 5日は午前中だけです。

【根岸座長】 5日は午前中だけで。

【林副座長】 私はできたら5日は避けてもらいたいと思うんです。

【根岸座長】 永井先生、いかがですか。

【永井委員】 2日は理事会が入っているんですけど。

【根岸座長】 あっ、2日なんですね。

【永井委員】 ええ。そちらは……。

【根岸座長】 午前からですか。

【永井委員】 1時半からです。こちらでありますでしたら、向こうを断ります。

【根岸座長】 午前中でしたら大丈夫ですね。

【永井委員】 大丈夫です。

【林副座長】 私は5日が1日だめなんです。用事があって。

【根岸座長】 鴨下先生、2日は。

【鴨下委員】 大丈夫です。

【林副座長】 5日はだめなんですよ。2日は大丈夫です。

【永井委員】 じゃ、みんなオーケー。

【根岸座長】 じゃ、2日の午前中、みんな大丈夫みたいですね。

【天野広報秘書課長】 時間はまた9時からでよろしいですか。

【根岸座長】 はい。じゃ、今回は6月2日月曜日、9時からということで。

今回の検討事項は、そうしますと、平和の日を3月10日に提案する、その文書の検討ということになりますね。

【天野広報秘書課長】 そうですね。今日の資料の東京都の条例がありますけれど、その前文の部分、この辺をちょっと事務局でも案を考えてみますので。あとは先ほど林委員のほうから、ほかの自治体でどんな行事をやっているのか。

【林副座長】 そうですね。

【天野広報秘書課長】 それはちょっと調べられる範囲でまた調べてみて。

【根岸座長】 できたら小中学校など学校も巻き込んだ行事でどんなことでやっているかというような、若い世代に対してどのようにアピールしているかということも、少し調べておいていただけるといいかと思うんです。

それでは、今日についてはこういうことでよろしいでしょうか。

【永井委員】 2日は会場はどちらでしょうか。

【吉田係長】 会場はこの隣の第1会議室です。

【吉田係長】 すぐ隣でございます。ここが第2で隣の第1会議室になります。

【根岸座長】 わかりました。

それでは、今日はどうもありがとうございました。よろしく願いいたします。

【林副座長】 事務局のものを提供してもらおうということなんだけど、東京都の内容に左右されることはないと思うんだよね。

【根岸座長】 ええ。

【天野広報秘書課長】 事務局のほうで案は考えますけど、例えばこういう言葉はどうしても入れたほうがいいんじゃないかみたいなのがあれば、事前にいただければ、案をつくる中で参考にはしたいと思いますので、メールでもファクスでも構いませんので、お寄せいただければと。

【根岸座長】 先ほどの話にもありましたように、できれば少し前に資料をいただけると、私の場合 じゃないのでメールで構いませんので。

【天野広報秘書課長】 はい、わかりました。

【根岸座長】 よろしく願いします。

【天野広報秘書課長】 ほか、メール、ファクス等で事前に資料をお渡しできる方はいらっしゃいますか。郵送のほうがよろしいですか。

【鴨下委員】 ファクスでいいです。

【天野広報秘書課長】 ファクスで。

【林副座長】 同じ電話番号で私もファクスで。

【永井委員】 ファクスで。

【天野広報秘書課長】 よろしいですか。皆さん、今いただいている電話番号で。

【永井委員】 ファクス番号違います。9428です。

【天野広報秘書課長】 下4桁9428で。あとは一緒ですね。

【永井委員】 電話は9423ですけれども、28です。

【吉田係長】 はい、わかりました。もしあまり量が多いようでしたら、郵送なり、届けるようにいたしますので。

【根岸座長】 どうもありがとうございました。

— 了 —